

2026年度 事業計画

社会福祉法人 晴誉会

1、 総 論

社会福祉法人晴誉会の掲げる理念のもと、以下の各項目において方針に則った保育・教育 活動、施設運営の実現を下記の計画のもと推進していく。

2、2026年度の動向

＜安定した運営を目指す＞

近年の物価高騰により、法人運営は厳しく、安定したとは言い難い状況である。2026年度においても情勢と動向を確認し、安定した運営を目指すこととしていく。

＜組織体制＞

組織体制としては大きな変更を計画していない。1 法人2 施設の体制の下、法人本部を含めた法人組織としての運営管理、組織体制の確立を課題としていく。両施設の提供するサービスの独自化を図り、必要な情報共有が欠けることのないように努めていく。

＜児童の受け入れについて＞

茨木市の待機児童は、0才児の受け入れが減少傾向で、1才児と2歳児の保育需要が伸びている傾向にある。ただし両施設とも鈍化の傾向強いいため、途中入園受け入れを実施していく。

＜職員体制＞

認定こども園制度における適正運営を鑑みながら、最低基準を満たすだけではない、余裕 を持った職員の継続的な確保を目的とする。法人立から20年が過ぎ、家庭を持つ職員が増え、出産育児に入る傾向が多く見受けられる。働きやすい職場・続けやすい職場であるために、職員の処遇を改善するとともに、続けやすい職場であることを目指し、これからも推進していく。

＜人材育成＞

職員定着が安定するようになり、就職形態にも変化が見受けられていて、積極的に職員の定着を進めていく。今後も職員の研修・育成体制の充実を図るために、またチュータ制度の一層の充実のためにも、外部講師による管理職層の研修を継続して実施していく。

今後も継続的に、各能力に応じた計画的な法人内人材育成を計画していく。

＜研修計画＞

随時実施していく。

＜保育体制＞

今後も両園ともに晴誉会の方針の共有を目指し、相互の意見交流と共有の場を設けることを継続していく。現代の保育リテラシーに合わせた行事として、今後も時流にあった改善とスリム化を検討していく。

3、施設運営・法人運営

＜山手台保育園＞

- ・ 地域の保育ニーズは鈍化傾向にある。2025年度も 0才児利用者はかなり少ない推移となった。その反省を踏まえ、当初園児数は定員数を勘案した状態での開始となる。
- ・ 人件費の増加と、物価の高騰、老朽化に伴う修繕費の増加、各特別保育事業の実施によるコスト増加などの問題があり、懸念されるため、計画的に検討を行う。

＜彩都保育園＞

- ・ 築20年になり、園舎全体に補修・改修が必要な箇所が散見されている。長期的な修繕計画の実施を検討している。
- ・ 彩都保育園の平均勤続年数は、2026年度において10年となる状況である。
- ・ 職員の離職が無く職員数が多くなり、勤務体制の検討が必要となっている。

＜法人＞

- ・ 管理職員、中堅職員の育成に努めていく。
- ・ 若手職員の定着の向上を図り、福利厚生 の充実に取り組む。
- ・ ICTを含めた業務省力化をさらに進めていく。

4、 保育を取り巻く環境

<職員処遇に関して>

継続して、職員処遇を向上していく。なお前年度においても処遇の向上を実施している。

<新子ども子育て制度>

「こども誰でも通園制度」については、両園において、導入について検討をしていく。

5、事業計画

<彩都保育園の償還に関して>

彩都保育園の建設資金の償還が 2026 年 6 月で終了する。

以上